

アール・ブリュット 2024 巡回展「抽象のラビリンズ —夢みる色と形—」

アール・ブリュット 2024 巡回展 Art Brut 2024 Touring Exhibition Abstract Labyrinths: Dreaming Color and Form



東京都渋谷公園通りギャラリーは、東京都とともに、アール・ブリュット*2024巡回展「抽象のラビリンズ —夢みる色と形—」を都内3会場において開催いたします。〈第1会場〉の東京都渋谷公園通りギャラリー（2024年9月28日～12月22日）を皮切りに、〈第2会場〉かつしかシンフォニーヒルズ（2025年1月17日～1月26日）、〈第3会場〉三鷹市芸術文化センター（2025年1月31日～2月12日）と巡回します。ぜひお近くの会場で、アール・ブリュットの魅力に出会い、作品が発するメッセージを感じてみてください。

～抽象作品が織りなす夢の世界へ～

アール・ブリュットの魅力を都内に巡回して紹介する展覧会は、今回で5回目を迎えました。この節目の年に、アール・ブリュット作品への関心をより一層高めることを目的として、本分野の研究者として国際的に活躍しているエドワード・M・ゴメズ氏をゲスト・キュレーターに迎え、本展を開催いたします。アール・ブリュットにおける〈抽象〉の表現にあらためて注目し、日本の作家7名の自由に想像をかきたてる作品世界を紹介します。

私たち人類は、夢という神秘的で、不確かな感情に満ちあふれるものに常に魅了され、そこに表れるイメージ、雰囲気、そしてその捉えどころのない物語の意味を問い続けてきました。抽象作品の多くもまたその意味は捉え難く、ときに私たちの理解を超えたものでさえあります。このように夢と抽象作品は、その本質的な性質が類似しているのです。遠い夢の世界で発見された遺物のようなモチーフ、ぼんやりとしたイメージとエネルギッシュな線、色鮮やかなグリッド、カラフルで不規則な形、夢の中に表れる奇妙なフォルム。これらの作品を鑑賞する私たちは、まるで抽象のラビリンズに迷い込んだかのような不思議な気持ちになることでしょう。

ゲスト・キュレーター
エドワード・M・ゴメズ



撮影：Ballena Studio

*アール・ブリュット (Art Brut) は、フランスの芸術家ジャン・デュビュッフェによって提唱されたことばです。今日では、広く、専門的な美術の教育を受けていない人などによる、独自の発想や表現方法が注目されるアートを表します。

展覧会概要

展覧会名：**アール・ブリュット 2024 巡回展「抽象のラビリンス —夢みる色と形—」**

会場と会期：**<第1会場> 東京都渋谷公園通りギャラリー 展示室1、2**

2024年9月28日(土) — 12月22日(日) 11:00~19:00

[休館日] 月曜日(10月14日、11月4日は開館)、10月15日、11月5日

<第2会場> かつしかシンフォニーヒルズ 本館2階 ギャラリー1・2

2025年1月17日(金) — 1月26日(日) 11:00~18:00

会期中休館なし

<第3会場> 三鷹市芸術文化センター 地下1階 第1美術展示室

2025年1月31日(金) — 2月12日(水) 11:00~18:00

[休館日] 月曜日

<出張イベント> 大島町開発総合センター(大島町役場)2階 大集会室

2024年11月16日(土) 11:00~12:00

観覧料：無料

ゲスト・キュレーター：エドワード・M・ゴメズ

出展作家：伊藤 駿、ガタロ、柴田鋭一、對馬考哉、土橋美穂、松井瑛美、箭内裕樹 *五十音順

音声ガイド：早見沙織(声優・アーティスト)

会場構成：アトリエ・ワン

主催：東京都、(公財)東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 東京都渋谷公園通りギャラリー

協力：葛飾区、三鷹市、大島町

公式サイト：<https://inclusion-art.jp/s/labyrinths/>

ゲスト・キュレーター

エドワード・M・ゴメズ

美術評論家、美術史家、アール・ブリュット・コレクションの諮問委員会会員。評論家として『ニューヨーク・タイムズ』『ハイパーアレルギック』『アートニュース』『アート・イン・アメリカ』『ジャパン・タイムズ』など多数の新聞雑誌に寄稿。イギリスのアウトサイダー・アートの雑誌『ロー・ビジョン』の元海外通信員 兼 編集者。『brutjournal(ブリュットジャーナル)』の創刊者 兼 編集長。著作に、Genqui Numata (Franklin Furnace Archive), Yes: Yoko Ono (Abrams), The Art of Adolf Wölfli: St. Adolf—Giant—Creation (American Folk Art Museum/Princeton University Press), Hans Krüsi (Iconofolio/Outsiders) など。



撮影：Ballena Studio

音声ガイド

全会場において、無料でお聴きいただけます。

ナビゲーター 早見 沙織(声優・アーティスト)

東京都出身。アニメ『SPY×FAMILY』ヨル役、『鬼滅の刃』胡蝶しのぶ役、『ONE PIECE』ヤマト役、映画『聲の形』西宮硝子役など、美しい声質と演技力で人気作品に多数出演。吹き替えやナレーション、歌手としても活躍。





作家紹介

伊藤 駿 ITO Shun

1995年 三重県生まれ

木炭を使用して、動物やギターなど自らが興味関心のあるものを自由に描く。力強く勢いのある線に、指による柔らかなぼかしを加えることで、躍動感のある表現となっている。代表的な参加展覧会として、「LoVE GiFTed 三重の荒ぶるアーティストたち展」（2023年、三重県文化会館ギャラリー）などがある。



1 伊藤駿《ギター》2021~2022年
特定非営利活動法人希望の園蔵

ガタロ Gataro

1949年 広島県生まれ

清掃員として勤務する傍ら、自らが使用する掃除道具の佇まいに美しさを感じ、拾ってきたクレヨンなどでスケッチをするようになる。2018年4月からは毎日「雑巾」の連作を描き続ける。代表的な参加展覧会として、「平成美術：うたかたと瓦礫 1989-2019」（2021年、京都市京セラ美術館）などがある。



2 ガタロ《雑巾の譜》2018年、クシノテラス（榎野展正）蔵

柴田 鋭一 SHIBATA Eiichi

1970年 埼玉県生まれ

「せっけんのせ」をテーマにした作品を継続的に描いている。近年は、キャンバスにボールペンで絵を描く際の、独特な感触と音に触発されて、精力的に制作を続けている。代表的な参加展覧会として、「日本のアール・ブリュット もうひとつの眼差し」展（2018年、スイス・ローザンヌ アール・ブリュット・コレクション）などがある。



3 柴田鋭一《せっけんのせ》2006年、
社会福祉法人みぬま福祉会工房集蔵

對馬 考哉 TSUSHIMA Kōya

1987年 青森県生まれ

ボールペン、アクリル絵の具、クレヨンなどを用いて、自分の内面と向き合いながら、心の赴くままに描いている。絵を描くほかに小説も執筆しており、様々な形で創作を続けている。代表的な参加展覧会として「第3回 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」（2023年、Bunkamura Gallery / Wall Gallery ほか）などがある。

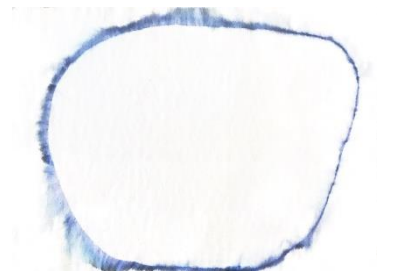


4 對馬考哉《FORGIVE》2024年、
平川市地域活動支援センターおらんど蔵

土橋 美穂 TSUCHIHASHI Miho

1971年 東京都生まれ

抽象的な形や動物などを、水性ペンやアクリル絵具を用いてみずみずしく表現している。2022年に相模原市緑区へ拠点を移し、自然豊かな土地で絵画の他にも、陶芸、ビーズなど、幅広い素材で制作を続けている。代表的な参加プロジェクトとして、「SDGs Color art project」（2022年）がある。



5 土橋美穂《無心》2020年、株式会社 nullus 蔵

松井 瑛美 MATSUI Emi

1992年 静岡県生まれ

花や果物など身近な題材をテーマに、アクリル絵具、水彩絵具などを用いて、自由な色と形で表現している。これまでに制作した絵画は600点を超え、勢力的に制作活動を続けている。代表的な参加展覧会として、「第4回 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」（2022年、Bunkamura Gallery / Wall Gallery ほか）などがある。

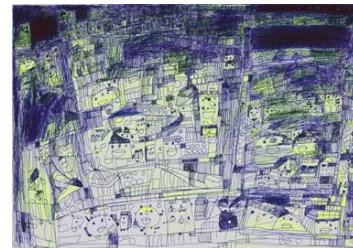


6 松井瑛美《彼岸花》制作年不詳、作家蔵

箭内 裕樹 YANAI Yūki

1985年 埼玉県生まれ

太さが異なるボールペンを使い分け、四角い箱や鋭い線、笑顔の人物を描いている。一心不乱にペンを走らせ、時には音楽を聴きながら楽しく創作活動を続けている。代表的な参加展覧会として、「現代 アウトサイダーアート リアルー現代美術の先にあるものー」（2019年、GYRE GALLERY）などがある。



7 箭内裕樹《Untitled》制作年不詳、社会福祉法人みぬま福祉会工房集蔵

関連イベント ※第1会場 [東京都渋谷公園通りギャラリー] のみで実施します。

オープニングギャラリーツアー（手話通訳付き） [申込不要/先着順]

2024年9月28日（土）14:00～15:00 定員：20名

出演：エドワード・M・ゴメズ（本展ゲスト・キュレーター）

子どものための造形ワークショップ [事前申込制、先着順] ※9月19日（木）10:00～申込開始

2024年10月13日（日）14:00～16:00 定員：20名〔小学生以上〕

講師：エドワード・M・ゴメズ

トークイベント（手話通訳付き） [事前申込制、先着順] ※9月26日（木）10:00～申込開始

2024年10月26日（土）17:00～18:30 定員：25名程度

出演：エドワード・M・ゴメズ、塚本由晴（アトリエ・ワン、東京工業大学大学院 教授）

分身ロボット「OriHime（オリヒメ）」とまわる鑑賞ツアー [事前申込制、抽選]

2024年12月1日（日）①14:00～15:00 ②16:30～17:30 定員：各回4名（遠隔参加1名、会場参加3名）

上記イベントのほか、ギャラリートーク（手話通訳付き）や視覚障害のある方のための触図をつかった鑑賞ツアー、「やさしい日本語」による鑑賞ガイドの配布を予定しています。

■ 東京都渋谷公園通りギャラリーとは

東京都渋谷公園通りギャラリーは、アートを通してダイバーシティの理解促進や包容力のある共生社会の実現に寄与するために、アール・ブリュット等をはじめとするさまざまな作品の展示等により、一人ひとりの多様な創造性や新たな価値観に人々が触れる機会を創出します。



撮影：太田 学

【お問い合わせ】

東京都渋谷公園通りギャラリー 広報担当 （（公財）東京都歴史文化財団 東京都現代美術館）

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-19-8 Tel：03-5422-3151 E-mail：pr-skdg@mot-art.jp

アール・ブリュット 2024 巡回展「抽象のラビリンス ー夢みる色と形ー」

[取材・画像使用申込書]

東京都渋谷公園通りギャラリー 広報担当 行

E-mail : pr-skdg@mot-art.jp Fax : 03-3464-5241

取材および広報用画像について

本展覧会の取材を希望される場合は、本紙に必要な事項をご記入の上、EメールまたはFAXにてお申し込みください。また、本展覧会の広報用画像を希望されます場合は、希望画像をご記入の上お申し込みください。

取材希望

画像使用希望

貴媒体名：

掲載・放送予定日：

種別： TV ラジオ 新聞 出版媒体 WEB フリーペーパー その他（ ）

貴社名：

ご担当者氏名：

Eメールアドレス：

TEL：

FAX：

ご住所：

取材希望日時：

使用希望画像

本リリース掲載画像のキャプションについている番号に印をお付けください。その他の画像をご希望の際は、広報担当にご相談ください。作品画像掲載の際は必ずキャプション及びクレジットの表記をお願いいたします。

- 1 伊藤駿《ギター》2021～2022年、特定非営利活動法人希望の園蔵
- 2 ガタロ《雑巾の譜》2018年、クシノテラス（櫛野展正）蔵
- 3 柴田鋭一《せっけんのせ》2006年、社会福祉法人みぬま福祉会工房集蔵
- 4 對馬考哉《FORGIVE》2024年、平川市地域活動支援センターおらんど蔵
- 5 土橋美穂《無心》2020年、株式会社 nullus 蔵
- 6 松井瑛美《彼岸花》制作年不詳、作家蔵
- 7 箭内裕樹《Untitled》制作年不詳、社会福祉法人みぬま福祉会工房集蔵
- 8 「抽象のラビリンス ー夢みる色と形ー」ポスター・チラシ画像



8 本展ポスター

なお、取材および写真使用に際しましては、以下のことをお願いしております。

- ・ 掲載画像に添えて、当該作品のキャプション（作家名・作品名・制作年・所蔵・コピーライト）を明記してください。
- ・ 掲載画像のトリミング、文字載せはお控えください。
- ・ 記事掲載・放送日が決まりましたら、事前にご連絡ください。併せて、掲載内容もお知らせいただけますと幸いです。
- ・ 掲載・放送後、掲載誌（紙）PDF、DVD、CD、URL 等のご惠贈をお願いいたします。